

LGBTQ 正しい知識を

ハラスメント防止研修などを行うアトリエエム(大阪府枚方市)の三木啓子代表(62)が、「あなたならどんな職場が働きやすいですか?」LGBTQが職場で感じていること」と題して亀岡市内で講演した。多様な性を認め合うため、職場の皆が正しい知識を身に付ける必要性を説いた。

三木さんは手始めに、自分の性別となぜそう思うかを紙に書き出してみよう参加者に促した。ペニスがあるから男、子どもを産んだから女…。「生まれた時の体の特徴を基に戸籍に書かれた性別が、ずっとその人の性として認識される」と説明した。

一方で「体の性と自認する性が違う人もいる」と指摘。「女はスカートをはいておしとやか」「男は髪

ハラスメント防止研修を行う「アトリエエム」代表
三木 啓子さん



誰もが働きやすい職場について講演する三木さん(亀岡市余部町・ガレリアかめおか)

多様性認める職場

毛を短く切らないといけない」などのジェンダー規範に対して、「その規範から外れている人がおかしい」という意識を払拭しないと、誰もが働きやすい職場環境にはならない」とした。

毛を短く切らないといけない」などのジェンダー規範に対して、「その規範から外れている人がおかしい」という意識を払拭しないと、誰もが働きやすい職場環境にはならない」とした。

の雰囲気は変わるといいう。

東京都の会社員男性の事例を挙げながら、本人の許可なく性自認や性的指向を他人に暴露する「アウティング」にも警鐘を鳴らした。男性は社長と上司の2人だけに同性パートナーの存在を打ち明けたが、上司が「自分から言うのが恥ずかしいと思つて俺が言った。1人ぐらいいいでしょ」と他言。三木さんは「非常に配慮のない言動」と非難した。

まずは「管理監督者」世代が、研修で正しい知識を得ることが大切だ。「多種多様な人たちの問題は人権問題。セクハラやパワハラを無くすために何ができるか、職場のみんなで一緒に考えてみて」と結んだ。講演は亀岡市が主催する「イクボス講座」の一環。市職員30人が耳を傾けた。(上田真里奈)

